



まちづくり団体の活動紹介

# 居心地が良く歩きたくなるまちなかへ

～ 水戸のまちなか再生に向けた取り組みが始まりました ～



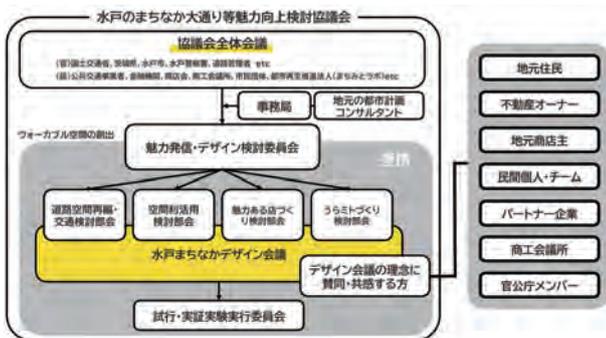
協議会 HP

水戸のまちなか大通り等魅力向上検討協議会 事務局長 三上 靖彦

## ■ 水戸のまちなか大通り等魅力向上検討協議会の発足

衰退著しい水戸のまちなか。その再生には今までとは違う抜本的な対策が必要です。そこで、令和2年5月、「水戸のまちなか大通り等魅力向上検討協議会」が発足、協議会を国土交通省の「官民連携まちなか再生推進事業」におけるエリアプラットフォームに位置付け、居心地が良く歩きたくなる（ウォークブルな）まちなか再生を目指すこととしました。

この事業制度は、位置付けよりもメンバーの共感・共有を具現化の原動力としています。共感できるビジョンを元に、官民が各々主体性をもって、まちなか再生に取り組みます。



## ■ 未来ビジョン素案の特徴

委員会や部会は、水戸のまちの将来を担う若手を中心に構成されています。彼らが中心となって策定した未来ビジョン素案は、その策定プロセスも中身も特徴的です。多くの点でこれからのまちづくりの在り方を提示しています。

まずビジョンの作り方として、①官民が連携しつつも、民が主導。②若手の自由な発想でビジョンの骨格を作る。③官民双方の年長者が若手をサポート。

ビジョンの中身としては、④ハードではなくライフスタイルが焦点。⑤社会実験による常に新しい挑戦を継続。具体化に向けては、⑥自分ゴトとして捉え、具体的な行動に移すことが前提。⑦年長者や行政が前向きに支援。

さらに面白い特徴として、⑧web会議が主体であったため、在京人も気軽に参加。⑨位置付けがないので、共感こそ命。

上記9つの点は、いずれもビジョンの実現性・実効性を高める上で大切なポイントです。

4月に水戸市の高橋靖市長へ報告、全面的に共感頂き、官民連携による役割分担で取り組んでいくことになりました。

## ■ 未来ビジョン素案の策定

協議会では、1つの委員会と4つの部会を設置し、令和3年の年明けには、委員会や部会での議論を通してイメージされた「未来ビジョン素案」がまとまりました。タイトルは「私たちの水戸っぽライフ まちなか再生計画～挑戦心を育む、コンパクトな街なか暮らしを取り戻す～」。

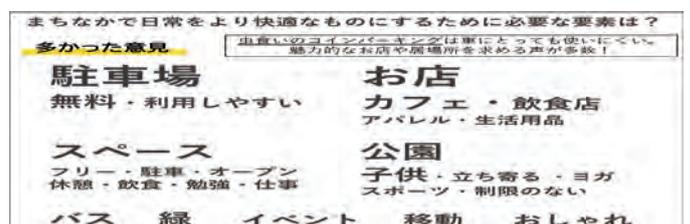
2月末に開催したシンポジウムでは、多くの方々が自分ゴトとして共鳴、新たな兆しを感じる事が出来ました。



## ■ まちなかに居住・通勤・通学している方々の意識

ビジョンの第一のターゲットは、まちなかに居住、通勤通学されている方々で、現状ではまちなかを歩かない人たち。令和3年度は、その方々の行動変化を仕掛ける試行・実証実験を実施することとしました。それに先立ち、まちなかの方々のライフスタイルをお尋ねするアンケートを実施しました。

ニーズとして、食事や散歩、緑の空間でのんびり過ごしたい。平日はお気に入りの飲食店で、休日はちょっと贅沢なランチを。若年層は友人と立ち寄れるカフェやカラオケ等。高齢層は散歩やのんびり滞在。子供連れはマルシェでの買い物や広場でお弁当。単身者はバーで友人との時間を、カフェで新聞を、など。年代や性別問わず、まちなかを散歩する需要が高く、ウォークブルなまちづくりへの期待が示されました。



## ■水戸まちなかデザイン会議の開設

5月には試行・実証実験の検討母体として「水戸まちなかデザイン会議」を開設、参加者を広く一般に募集しました。

会議への参加条件は、ビジョンに共感し、友好的で前向き、かつ自分ゴトで考え行動すること。さらに、互いを尊重した関係づくりや公共心、若手による運営を大切にすること。

デザイン会議は、実験開始の10月までに10回開催。高校生や大学生、市役所や商工会議所、不動産オーナーや商店主、大学や民間から、志の高いメンバーが集まりました。

アンケート結果や実験内容についての議論、まち歩きやワークショップ、沿道ビルオーナーの取り組み紹介と現場視察、さらには都市空間の活用や公共空間マネジメントに関するオンラインセミナーも実施しました。

毎回初めての方も含め40名程度の参加。共感の輪が広がり続けました。このプロセス自体が、すでに実験的です。



## ■試行・実証実験の準備

日常性と持続可能性に主眼を置いた試行・実証実験のメインの一つは、ストリートサインの設置。安心して歩ける裏通りづくりに向けて、①白線の引き換えによる歩行者空間の拡張、②黄色の半円サインによる車両減速の注意喚起、③黄色のラインによる回遊性向上・街歩き誘導。

メインの二つ目は、たまり場づくり。実験の中心である南町2丁目の裏通りのビルオーナーや商店街の方々のご協力で、回遊してくる来街者の「寛ぐ場」を用意しました。



9月に入り、裏通りでは道路の白線の引き替え、黄色の半円形サインや直線テープの貼り込みも行われました。デザイン会議では実験会場のお掃除ワークショップも実施。10月に入りデザイン会議のメンバーで会場の仕上げを行いました。



## ■試行・実証実験の実施

試行・実証実験「水戸まちなかりビング作戦」は、南町2丁目の裏通りを中心に10月9日から31日に実施しました。

飛ばす車の多い裏通りでしたが、サインのお陰で歩行者に優しい通りになりました。たまり場としては、サロンのような空間、一息つける滞在スペース、光と音で楽しめる通路、半屋外ワークプレイス、ドッグラン、絶景を望む屋上、等。とても素晴らしい空間を提供できました。

これらの空間を「日常の中でどのように活用するか」。デザイン会議メンバーによる活用策「まちなかチャレンジ」を展開。まちなか案内、歴史勉強会、カフェ、あそび場、屋台、電動車椅子試乗会、などなど。たくさんの方が参加し、新しい日常を体験頂きました。今まで気付かなかった魅力的なお店、資源、眺望などを発見することにもつながったようです。



## ■データ検証と今後

実験では様々なデータを収集しました。参加者アンケートでは、実験に肯定的で継続を望むこと、回遊する理由や場、コンテンツを期待していること、などが、またお店の方へのヒアリングでは、人通りが増えたこと、期待は大きく継続的实施を望むこと、などが分かりました。

ビデオカメラとAIを活用し、車と歩行者の動きも分析しました。通過交通のトップスピードの抑制や歩行者に優しい空間づくりの効果が、定量的に把握できました。

一方で、共感者を増やす広報戦略や、人々を楽しませるコンテンツ、そして運営体制の充実等の課題が浮き彫りになりました。体制を整備し、場とコンテンツを用意し、しっかりしたプロモーションを行い、成果を出し続けることで、継続的にチャレンジする息の長い取り組みが可能になり、まちなかを抜本的に変えるムーブメントになる、と信じています。

令和4年度には、課題解決に向けた新たな社会実験と、シティプロモーション・情報発信に取り組む予定です。